

2021年7月15日

報道関係各位

中部学院大学

岐阜県との協定に基づく中部学院 DCAT 後方支援員

県災害派遣福祉チーム後方支援員認定式

中部学院大学ならびに中部学院大学短期大学部は昨年9月、岐阜県との間で「県災害派遣福祉チームへの学生等ボランティアによる後方支援に関する協定」を締結しました。それに伴い、今回、中部学院大学 DCAT 後方支援員の認定式を行います。

協定では、災害発生時、岐阜県の派遣協力依頼に応じて、本学の学生、教職員を DCAT 後方支援隊員（※）として被災地の避難所などへ派遣することになっています。併せて、本学の「医療」「介護」「福祉」「教育」などの専門職養成の使命に基づき、災害時に対応できる専門職を教育する実践的な学びの場とすることとしています。

今回の認定式では、高齢者、障がい者、乳幼児などの要支援者に対して支援を行うために必要な研修を行い、養成研修を修了した学生や教職員ら81名を中部学院大学 DCAT 後方支援員として認定し、認定書を交付します。

※「DCAT」…岐阜県災害派遣福祉チーム。県内の福祉施設などから推薦された介護福祉士、看護師、理学療法士、社会福祉士などで構成

※「DCAT 後方支援員」…目的に賛同し自ら登録し活動に参加する本学の学生、教職員で構成

記

- **日時** 2021年7月22（木）午後4時40分～午後6時10分
- **会場** 対面とオンラインの併用方式
(メイン会場は関キャンパス 10403 教室 関市桐ヶ丘 2-1)
- **認定者** 81名（学生76名、教職員5名 内訳は備考参照）
- **流れ** 開会の言葉
(抜粋) 経過説明
認定書授与（代表者＝大学と短期大学部各1名に授与）
激励の言葉（古田善伯 大学学長 片桐多恵子 短期大学部学長）
決意表明（大学と短期大学部各1名）
記念の講話（「ボランティア活動の心構え」岐阜済美学院 顧問 森 包義 氏）
閉会の言葉
写真撮影

【備 考】

1. 養成研修（別紙参照）

- (1) DCAT 後方支援員は、養成研修を受講して名簿に登録された者という。
- (2) DCAT 後方支援員は、登録後毎年開催される継続研修に参加しなければならない。

2. 災害時の派遣

- (1) 岐阜県から派遣の依頼があった時は、登録者名簿から希望者を募集する。募集に応募した者を依頼内容によって派遣計画を立てる。
- (2) 派遣する時は本学の教職員が同行する。
- (3) 派遣先においては、DCAT の指示に従って活動する。
- (4) 活動に必要な費用は後方支援員自身の負担を基本とする。
- (5) 派遣先の事故等に備えて大学の費用でボランティア保険に加入する。
- (6) 活動に必要な備品、消耗品などは大学から提供する。
- (7) 活動を行ったものは別紙 3 の報告書を提出する。

3. 内 訳

人間福祉学科 10 名、理学療法学科 2 名、看護学科 42 名、子ども教育学科 6 名、
短期大学部社会福祉学科 16 名、教職員 5 名

4. 今後の予定

【継続研修】（参考資料参照）

1 回目：2021 年 11 月予定

2 回目：2022 年 5 月予定

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学（担当：人間福祉学部 飯尾良英 教授）

地域連携推進センター長・中部学院 DCAT 後方支援事業運営チーム長

TEL 0575-24-2211 E-mail iio@chubu-gu.ac.jp

【参考資料】 養成研修並びに継続研修の概要

(1)養成研修

回数	内容	時間
1 (6月1日5限)	①自然災害の基礎知識（自然災害発生の仕組み、過去の災害状況 など） 人間福祉学科教授 大藪元康 先生 ②岐阜 DCAT の仕組みと活動内容（DCAT の目的と意義、過去の活動状況や内容 など） 人間福祉学部教授 大藪元康 先生 ③避難所の基礎知識（支援活動が予測される避難所について） 社会福祉学科准教授 高野晃伸 先生	90分
2 (6月15日5限)	①避難所支援に必要な基礎知識と心構え（DCAT 派遣が予測される避難所等での福祉的支援の内容と方法） 社会福祉学科准教授 高野晃伸 先生 ②避難所支援に必要なこととからだの基礎知識 看護学科教授 今井七重 先生	90分

(2)継続研修

回数	内容	時間
1 (2021年11月)	【演習】DCAT 後方支援員として活動をシュミレーションする DCAT 後方支援員の活動で想定される場面について、演習（図上演習含む）	90分
2 (2022年5月)	①被災地支援の実際と課題 過去の被災地域の状況と支援について ②DCAT 隊員の実践報告	90分